

- ① 国語の問題は、その一、その二、その三、その四、その五、その六の六枚です。
- ② 答えはすべて [ ] の解答らんに書きなさい。

受検番号

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「あれ。おれっちの魚、死んでんじゃん」  
 二時間目と三時間目のあいだの休み時間。窓のほうからタビの声がきこえてきた。  
 「おかしいな。昨日まで元気だったのに。あ、まだちょっと生きてる。おいおまえ、**a**病気になったのか？ほれ、ほれ」  
 そんなことをするとよけいに弱ってしまふのに、わりばしの先でついたりしている。しきりに首をかしげているタビの姿に、罪悪感がうずく。  
 でもべつに、たいしたことじゃない。飼ってた生き物が突然死するなんて、よくあることじゃないか。タビもたまにはおれとおなじ気持ちを味わってみてもいいんじゃないだろうか。

ところが数日後の朝。タビの飼育箱にミラクルが起こっていた。  
 いつ死んでもおかしくなくらい弱っていた**\*2**稚魚が、復活していたのだ。何事もなかったかのようにほかの魚たちにならざるで、元気に泳いでいる。もはやおれのおれの稚魚だったのかもわからない。  
 「よかった。けど、なんで弱ってたんだろう」

① タビは首をかしげている。

「エサやりさぼってたでしょ。おなかすかせて気絶でもしてたんじゃない？」

花音のツツコミに、まわりから笑いが起こる。「死んだ死んだ」とさわいでいたせいで、いまやタビの金魚はクラスじゅうの注目を集めている。

「そうかな。もうだめだつてかんじだったけど……」

タビはあいかわらず首をかしげている。

たしかにあの金魚は死にかけていた。

なのに、なぜか元氣を取りもどし、ピンピンしている。

タビのまわりでは、そういうことが、よく起こる。  
 だが本人は、いまだにそのことに気づいていない。  
 気づいているのは、たぶんおれだけだ。

最初は一年生のときの、あさがおだった。

おれがいち早く**b**選んだ種は、ひととき大きくてハリがあった。なのにいざ自分の鉢で育ててみると、その種は発芽も遅かったうえ、くきも葉も弱々しくしておれがち。

だから水やり当番のとき、土にささっていたネームプレートを、タビのそこそり取りかえたのだ。植木鉢の場所も入れかえておいた。

よくないことをしているのはわかった。

去年、クラスの男子四人が、お祭りの屋台からジュースを盗んでつかまった。

「もう、ほんとに情けない」

先生が声をふるわせて泣いているのを見て、自分が悪いことをしたみたいに胸が痛んだ。緊急に開かれたクラス会で黒板の前に立たされた四人は、「悪いことだつて知ってた」「けど、ついやってしまった」と、まっ赤な顔をして白状した。泣いているやつもいた。

おれのやつてることは、②あれと同罪なんじゃないだろうか。

ついやってしまつて、やつてしまつたたびに、罪悪感にさいなまれる。

だが、さいなまれるのも、わずかのあいだだった。  
 取りかえられてからしばらくたつと、タビのあさがおは息をふき返したように成長し、色あざやかな花をたくさんつけた。空へむかつてするするをつるをのぼし、秋には種をたくさん残して**\*4**天寿をまっとうしていた。

あいつはなにも特別なことはしていない。ただテキストに水やエサをやつて、気まぐれに枯れた葉やフンをそうじして。笑つたりふざけたりときどき怒られたりしながら、のん気に生きてるだけ。

一方、おれのところへ来たあさがおは、しだいに元氣をなくしていった。  
 見るたびにいやな気持ちになるからだんだんほうっておくようになって、やつぱり枯れてしまった。

サルビアのときも、モンシロチョウのときも、カブトムシのときも、おれはこっそりタビの育てていた生き物を、自分のやつと取りかえた。だが、結果は似たようなものだった。それまでは元氣だった生き物も、おれのところへ来たときとみるみる元氣をなくして、最後はぐったりと動かなくなつてしまふ。

あけはなれた窓から、ときおりホイッスルの音がきこえてくる。

教室のうしろでは、習字の授業で書いた③「春風」の文字たちが、ほわほわと風にゆれている。

おれの「春風」は、あのなかにない。たくさんの「春風」のなかから選ばれて、区の商品展に出品されることになったのだ。タビの「春風」なんて、かたちもいびつでぼこぼこして、半紙には墨汁の**\*5**指紋までついていて、

運動も勉強も、みんなでいっせいにやるからこそ、いやでも**\*6**優劣が目についてしまふ。おれは、小さいころからなんでもほかのやつより器用にこなせるほうだった。  
 ∧「金魚たちの放課後」(河合二湖) 小学館 二〇一六V

《注》

- \*1 うずく
- \*2 稚魚
- \*3 さいなまれる
- \*4 天寿
- \*5 指紋
- \*6 優劣
- ずきずきいたむ
- 卵からかえつてまもない魚
- くるしめられること
- 天からあたえられる命の長さ
- 手の指先の内がわたれたある、多くの線がつくるもよう
- すぐれていることとおとつていること



国語 (その三)

- ① 国語の問題は、その一、その二、その三、その四、その五、その六の六枚<sup>まい</sup>です。  
 ② 答えはすべて  の解答らん<sup>らん</sup>に書きなさい。

受験番号

問六 伊藤さんの学級では、( その一 ) の文章を他の学年に紹介するためのポスターを作成することとなり、ポスターの見出しについて話し合っています。

伊藤 このお話は「おれ」がタビに対して「罪悪感」をいっている内容だから「おれの罪」という見出しを考えました。坂本 なるほど。確かに「おれ」はタビに「罪悪感」をいだいています。しかし、文章に使われている言葉を使わずに言い換えても良いのではないかと考えます。例えば、「罪悪感」ということは「おれ」は自分のやったことを後悔しているわけですから「ひと夏の後悔」というのはいかがでしょうか。  
 島田 その考えについて、ぼくは反対です。なぜなら①「ひと夏の後悔」という言葉のひびきが好きじゃないからです。坂本 ちなみに見出しについて、ほかの考えも聞いてみましょう。原田さんはどのような見出しを考えましたか。  
 原田 みなさんは、「おれ」の視点から見出しを考えていますが、私は「タビ」の視点から見出しを考えました。「タビの飼育箱にミラクルが起こっていた」というところから「タビを取り巻くミラクル」と考えました。  
 伊藤 原田さんの考えもおもしろいね。ぼくは、最初「罪悪感」をいっている内容だから「おれの罪」という見出しを考えましたけど、文章の「A」という部分から「なんでもできると思っている『おれ』と『タビ』という見出しを考えました。  
 ～ (話し合いが続く) ～

(二) ぼう線部①『ひと夏の後悔』という言葉のひびきが好きじゃないからです。」という島田さんの発言についての問題点は 何ですか。理由もふまえて説明しなさい。

(二) 「A」に入る言葉を ( その一 ) の文章中から三十字で抜き出し書きなさい。


(三) あなたならば、どのような見出しを提案しますか。また、そう考えた理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

【見出し】

【理由】

- ① 国語の問題は、その一、その二、その三、その四、その五、その六の六枚です。  
 ② 答えはすべて  の解答らんを書きなさい。

受検番号

二 次の資料A・Bを読んで、あとの問いに答えなさい。

資料A

「踏まれても立ち上がる」はウソ?

雑草は、踏まれても踏まれても立ち上がると言われます。本当でしょうか?

一度や二度、踏まれたくらいであれば雑草も立ち上がってきます。しかし、何度も踏まれるような場所では、雑草は立ち上がってきません。

雑草は踏まれたら立ち上がらないのです。

雑草はたくましいと思っていたのに、何とも情けないとがっかりする人もいるかも知れません。(①)、そもそも、どうして立ち上がらなければならないのでしょうか。

植物にとつて一番大切なことは、花を咲かせて、種子を残すことです。そうだとすれば、踏まれても立ち上がるという余計なことエネルギーを使うよりも、踏まれながら花を咲かせて種子を残すことの方が、大切です。

踏まれても、立ち上がらなければならないというのは、人間の幻想です。植物の生き方は、人間の情緒的な根性論よりも、ずっと合理的なのです。

踏まれやすいところに生えるタンポポが、茎を倒して花を咲かせていることがあります。これは踏まれて倒れてしまったわけではありません。踏まれて葉が刺激を受けると、最初から茎を横に伸ばします。こうして、踏まれるダメージから逃れているのです。

日本タンポポは弱い?

よく知られているように、タンポポには外国からやってきた外来の西洋タンポポと、昔から日本にある在来の日本タンポポに大きく大別されます。西洋タンポポは、②勢力を拡大しているのに対して、在来の日本タンポポはだんだんと数を③へらしています。

そうだとすると日本タンポポよりも、西洋タンポポの方が強いのでしょうか。両者の能力を比べてみることにしましょう。

西洋タンポポは日本タンポポよりも、小さくて軽い種子を作ります。そのため、より遠くまで種子を飛ばすことができます。そして、種子が小さいということは、その分だけ、種子の数を多くすることができます。

また、日本タンポポは他殖なので、ハチやアブなどが花粉を運んでこないと種子ができません。(中略) それに対して、西洋タンポポは花粉がつかなくても種子を作ることができる。アポミクシスという特殊な能力を持っています。そのため、まわりに花がなく、昆虫がいけないような環境でも、種子を作ることができます。

それだけではありません。日本タンポポは春にしか咲きませんが、西洋タンポポは一年中、花を咲かせることができます。そのため、西洋タンポポは次から次へと花を咲かせて、次から次へと種子をバラまくことができます。

タンポポの生態的地位

こうして見ると、どうも西洋タンポポの方が、日本タンポポよりも強そうです。しかし、本当にそうでしょうか。

日本のタンポポは、西洋タンポポよりも大きな種子をつけます。これは、遠くまで飛ばす上では不利ですが、大きな種子からは大きな芽生えが育ちます。これは、他の植物と競って伸びる上では大切です。また、他の花の花粉と\*交配することによって、バラエティに富んださまざまな子孫を残すことができます。④これは、多様な環境に⑤できおうするのには有利です。さらに、日本タンポポは春にしか咲きません。そして、さっさと咲き終わって種子を飛ばすと、根だけ残して自ら枯れてしまうのです。

夏になれば、他の植物は生い茂って、小さなタンポポには光が当たりません。そこで、他の植物との戦いを避けて、地面の下でやり過ごすのです。

つまり、日本タンポポは、自然豊かな環境で育つのに、とても戦略的なのです。

一方、西洋タンポポは、種子が小さく⑥競争力は高くありません。また、一年中、花を咲かせようとするので、夏には他の植物に負けてしまいます。その代わりに他の植物が生えないような都会の道ばたで花を咲かせて、分布を広げているのです。

西洋タンポポが広がり、⑦日本タンポポが少なくなっているということは、じつは、日本タンポポが生えるような日本の自然がげん少し、都会の環境が増えているということなのです。

西洋タンポポと日本タンポポと、どちらが強いということはありません。どちらも自分の得意な場所を⑧生息地にしていきます。このような生息場所のことを「ニッチ(生態的地位)」と言います。

雑草と言えども、どこにでも生えるというわけではないのです。

- ① 国語の問題は、その一、その二、その三、その四、その五、その六の六枚です。  
 ② 答えはすべて [ ] の解答らん<sup>らん</sup>に書きなさい。

《注》

- \*1 幻想……現実にはなさそうな、ゆめのようなことを思うこと。また、その想像。
- \*2 情緒……人の心を動かすような、気分や雰囲気。いろいろな感情。
- \*3 合理的……正しく理屈や道理に合っているようす。
- \*4 在来……前からあったこと。これまでであったとおり。
- \*5 他殖……ある植物の花粉が他の個体の植物のめしべに受粉する現象。
- \*6 アポミクシス……主に植物で、単体で種子や球根を作ること。
- \*7 特殊……ふつうのものとはちがっていること。とくべつであること。
- \*8 交配……おすとおめす、また、おしべとおめしべをかけ合わせることに。
- \*9 戦略……戦いや競争に勝つための全体的な計画や方法。

植物図鑑

資料 B

「日本タンポポ 対 西洋タンポポ」

日本タンポポ		西洋タンポポ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい。</li> <li>・大きな種子からは大きな芽生えが育つ。</li> <li>・他の花粉と交配することで様々な子孫を残すことができる。</li> </ul>	種子	ア
工	季節	イ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・だんだん少なくなっている。</li> <li>・自然豊かな環境で育つ。</li> </ul>	分布	ウ

受検番号

